



未生

2024 12

12月替りのアーティストが  
季節の植物をテーマに語ります

## 花とアートのスケッチ・コラム

今月のアーティスト 森 夕香

### 「植物の物語」

2023年の12月のある日の夜明け前、真っ暗な中、私は京都市内の山の麓にいた。  
この日はお世話になってるギャラリーの企画で鹿狩りを見学することになっており、関係者の方達と早朝に集合し、そこで猟師さんと落ち合った。

私が普段使っている日本画の絵具は膠と混ぜることで画面に定着する。

この膠がないと顔料は粉状のまま画面に定着せず、描くことはできない。その日本画に欠かすことのできない膠というのは実は動物の皮を煮込んで作られている。

毎日のように使っているにも関わらず、動物が死ぬことやその解体された姿を想像できたことは今までなかった。

この鹿狩りの見学は、鹿肉として食べられている部分以外の骨や皮は捨てられているという現状から、その捨てられる部分も余すことなく使わせていただき、素材を見つめ直す、という趣旨の企画であった。

私は鹿皮を膠にする工程を体験し、出来た膠で絵を描く。鹿の骨を用いて彫刻作品を作った作家さんもいた。

会うなり、猟師さんは急いでいる。すでに鹿は異にかかった状態のだが、夜が明けて人が来る前に仕留めないといけないとのことだった。

後になって猟師さんが教えてくれたのは、シダ植物のほとんどは鹿に食べられることがないから残っているということだった。

それはつまり、シダ植物以外の木の新芽などは増え続ける鹿に食べ尽くされて、鹿を獲らないと木も育たない場所になり、熊の食べものもなくなると、動物たちは人間の食べ物を食べにくくなるということである。

あの時のシダ植物がやけに鮮やかに見えたのは、他の緑の植物がなかったからだだったのかとその時に気がついた。

そこにあったシダ植物から、そこにあったはずだけなくなった植物達のことを想像し、その植物を食べた鹿と、その鹿を食べた人間（私たち）そして作られる画材や作品までも全てが連鎖していることに気付かされた。

植物を見ることはその背景にある物語を想像することでもあると感じた。

普段から私はよく植物の絵を描いており、描く対象は主に



「ツククサ」

2024年制作  
和紙、日本画顔料 紙本着色  
27cm×19cm

人が動物を殺める瞬間を見ているのは私の日常生活において皆無である。  
私は緊張しつづ、足の速い猟師さんについて歩いた。少し行くと、カッ、カッ、と音が聞こえて、檻が見えた。音は雄鹿のツノが檻に当たる音で、忙しく動く姿は生命力に溢れていた。  
そして、あつという間に電気ショックで鹿は仕留められた。一瞬のことだった。  
その後すぐに内臓が取り出されたのだが、つい数分、数秒前まで生きていた鹿の内臓は生き生きとして赤く、死以上生命を感じさせるものだった。  
衝撃的な光景を目の当たりにしたことに対する自分の感情が輪郭を持たないまま、周りを見るときいつの間にか夜が明け、そこで初めて自分が山の麓のような場所にいることがわかった。

ほんやりと周りが見え始める薄明かりの中、黄緑色のシダ植物だけが鮮やかに点在していて、内臓の赤色と対照的だったからなのか、その光景が印象に残っていた。



狩の日のシダ植物（筆者撮影）

道端に自生している雑草と呼ばれるような植物達である。紙と鉛筆を持って外に出て、気になった植物があると写生してその場所の緯度経度を記録しアトリエに持ち帰り、日本画の画材で描き起こしていくという流れである。いつの間にかこのように植物を描くことは私の生活の中に入り込んで定着しているが、元々は廃校になった小学校跡地で展覧会を開催した時に、そこに自生していた植物達の肖像画を描くような気持ちで始めたことがきっかけであった。廃校になり、校舎はそのまま残っているが人の気配はなく、中庭や校舎を覆い尽くすように蔓延る植物達からはたくさんの物語の気配が漂っていた。そこに佇んでいた大きなイチヨウの木は一際存在感を放っていた。

外で描いていると、よく人に話しかけられる。私自身も気になることがあれば誰かにたずねる。警備員さんも気にかけてくれる。猫もくる。蚊にも刺される。蟻やダンゴムシ、バツタ、さまざまな虫の存在に気が付く。

そんな交流の中でやはりその大きなイチヨウの木にはたくさんの物語があることを知った。植えられた時の話、そのイチヨウの木を象徴する先生がいた話。その先生のさまざまな逸話。

廃校のイチヨウの物語も、狩の時に見たシダ植物の物語もどちらもその植物の存在が語る話であり、それは私が絵を描く動機や、使わせていただいている画材にも繋がっている。そんなことを考えながら今日も絵を描かせてもらっている。

### プロフィール

森 夕香（もり ゆか）

1991年 大阪生まれ滋賀県大津市育ち  
京都市立芸術大学大学院 修士課程日本画専攻修了  
主に京都、東京で個展、グループ展を開催



森 夕香 Instagram 今後の活動予定などの情報を更新しています。  
@mori1227